

ついでに、大枠の台本があります。この作家さんの能力がとても高いのです。私がいくつかキーワードをお話しして、そこから色々調べて台本を作っていたきました。この質がとても高いのです。あまりにもすごいので、どうしてこんな素晴らしい台本が作れるのか聞いてみたら、私の本や記事を多く読み込んでおられました。まさにプロの仕事だなあと感じました。

放送作家ってそこまで注目される職業ではないのですが、こういう方がいていろいろな番組が作られるのかと本当に感心しました。

出張えんげ食

先日、「出張えんげ食 ふじ家」の

藤原史朗さんと対談しました。

そもそも「出張えんげ食」とは何か？ですよ。口から食べる機能、飲み込みの機能が落ちてきた方に対し、口から食べられるように食事を柔らかくしたり、とろみを付けたりしたものや嚥下食と言います。藤原さんは、そのような機能低下がある方のご自宅に伺い、ご家族には普通の食事、機能が低下した方には嚥下食を作られるのです。しかも、見た目は同じ懐石料理になるように工夫されているので、ご家族全員がご自宅で、同じものを食べられることを実現しようとしておられます。

藤原さんは京都の名旅館で修業をされてきた一流の料理人で、それだけの腕を持った方がどうしてこのようなサービスを考えたのかとても興味を持ちました。

対談をして感じたのは、料理人の方は、自分たちが作ったものを食べてもらい、喜びを感じてもらいたいと強く思っているということ。私自身は調理もしないし、人のために作ることなどないので、逆にその思いを強く感じました。そして食べるのが難しくなっている人がいるのであれば、料理人がその方にも食べる喜びを感じてもらいたいと思うのは当然のことのように感じました。

とは言え、他人の家で調理するのは本当に大変だと思います。お店に来ていただければ、料理する方はとても楽なはず。ただ、ご自宅にこだわる藤原さんには、とても共感できました。それは私が在宅医療をやってきたからでしょうか。

ご興味があれば紹介しますのでご連絡ください。